

開催報告

## 第26回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会開催報告

第26回研究集会幹事 峠 和男 ((株)EFA ラボラトリーズ)

本研集会は、毎年、一般社団法人廃棄物資源循環学会、公益社団法人地盤工学会、公益社団法人日本地下水学会、公益社団法人日本水環境学会の4学会と一般社団法人土壌環境センターの五団体の主催で開催している。

毎年の運営主担当は4学会で順繰りとしており、第26回の主管学会は地盤工学会であり、実行委員長は同学会より埼玉大学教授の川本健氏にご就任いただいた。

開催準備は2020年8月頃より本格的に開始したが、新型コロナ禍が縮小気味になるという期待もあり、埼玉県さいたま市に所在する「埼玉会館」での会場開催を予定した。しかし、新型コロナ禍は縮小することなく、会場開催は障害が多いだらうという判断により、2021年1月にオンライン開催に方針転換し、開催準備を行い無事にそれなりに盛況に開催することができた。本研究集会開催でオンライン開催は初めての試みであり、実行幹事は大変な苦勞をしたが、以下に開催内容について紹介する。

表-1 第26回研究集会開催概要

開催日	2021年6月24日(木)～25日(金)
開催方法	オンライン方式 (Zoom利用)
発表件数	101 件
特別講演	1 講演
企業展示	16 ( 社・グループ)
共催・後援団体	21 団体 (埼玉県、さいたま市を含む)
参加者数 (発表者・視聴者含む)	411 名

本研究集会は、地下水・土壌汚染の実態・原因・経路の調査から、汚染物質の移動機構の解明、汚染による影響やリスクの評価、汚染の防止対策・修復技術・修復評価、地質等に起因する自然由来の汚染や放射性物質による汚染に関する国内最大規模の研究発表会として、地下水・土壌汚染問題の様々な課題について研究成果や事例発表、意見交換、技術交流、情報収集、人材育成や学習の場として開催している。

今回(第26回)の発表内容を汚染対象物質および対応段階ごとに分けると以下の図のようになる。対象物質では重金属類が約50%、VOCsが約28%と大半を占める。対応段階では、対策段階の発表が約58%、続いて調査と評価・制度の各々が約17%であった。

発表者の内訳は、大学関係や公的機関を合わせて30%未満、民間企業からの発表が大半であり70%余りである。本研究集会の特徴といえる。

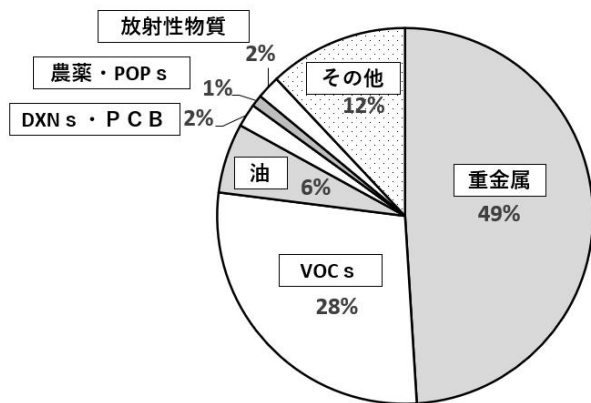


図-1 染物質別発表件数割合

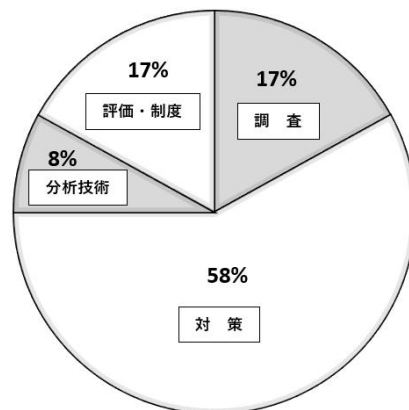


図-2 対応段階別の発表件数割合

発表分野等で10のセッションに区分したが、各セッションには10件程度の発表がある。筆者はセッション5（S5-1～S5-10）の座長をさせていただいたが、オンラインでの発表はプレゼンのパワーポイントが自分のPC画面で鮮明に見えることなどから、会場開催と比較して集中してプレゼンを聞くことができた。なお、従来は発表案件のすべては、簡易な口頭プレゼンに引き続いてポスター発表していた。そのためポスターの前で詳しいディスカッションやコミュニケーションがあったが、オンラインではそれができなかった。

結びに、来年度の第27回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会の開催予定を案内させていただく。第27回は2022年6月23日、24日に横須賀市文化会館において会場開催を目指している。来年度は新型コロナ禍がどのようになっていくか、いささか不安であるが、本報告を一読し、興味を持たれた方は参加の検討をお願いします。

以上